

現代のピアノ音楽の演奏と指導～西村朗のピアノ作品を中心に～

Performance and Teaching of Contemporary Music for Piano

- Mainly on the Piano Works by Akira NISHIMURA -

プロジェクト代表者：^{えびすた}蛭多令子（教育学部音楽教育講座・教授）

Reiko EBISUTA (Faculty of Education / Professor)

1 「蛭多令子ピアノリサイタル～西村朗の世界～」の企画および準備

下記の内容で「蛭多令子ピアノリサイタル～西村朗の世界～」を平成19年度に開催することとし、平成18年度はその企画構成、資料収集、演奏する作品の解釈、練習等を行った。リサイタルでは研鑽の成果を披露する。

演奏会名称：「蛭多令子ピアノリサイタル～西村朗の世界～」

開催日時：平成19年9月9日（日）午後2時開演 午後4時終了予定

開催場所：東京文化会館小ホール（東京都台東区上野公園内）

マネージメント：東京コンサーツ

助成：（財）ローム ミュージック ファンデーション

（社）日本演奏連盟「山田康子奨励・助成コンサート」

後援：（社）全日本ピアノ指導者協会（ピティナ）

日本アルバン・ベルク協会

蛭多令子後援会

演奏曲目：《オパール光のソナタ》（1998）

《夜光》（1999）

《薔薇の変容》（2005）

《カラヴィンカ》（2006）

《曲名未定》委嘱新作・世界初演（2007）

《ヴィシュヌの化身より“ヌルシンハ”》（2002）

西村朗（1953～）は、国際的に評価の高い作曲家で東京音楽大学教授を務めている。西洋音楽を基礎としながらも、アジアの伝統音楽、宗教、美学、宇宙観から導いたコンセプトによる、スケールの大きな独自の作風で知られる。

西洋音楽が日本に移入されて百数十年が経ち、日本の音楽界は国際的に高いレベルに達しているが、20世紀後半以降の新しい様式の音楽作品が演奏されたり、教育の場で取り上げられたりする機会は未だに少ないと言える。

西村作品のみによるこのリサイタルでは、西村の既存の作品を再演するだけでなく、新作を委嘱し、その世界初演も行う。このリサイタルを、21世紀のピアノ音楽史の新たな1ページを開く演奏会として位置づけたい。

会場となる東京文化会館は日本有数のホールであるため、使用するに当たっては競

争率の高い選考が行われる。今回の計画内容が評価され、平成18年度に行われた選考を通過した。助成（外部資金）2件についても、それぞれの選考を通過し獲得が決定した。助成金の交付は平成19年度に行われる。

2 現代のピアノ作品の演奏と指導

西村朗をはじめとする現代のピアノ作品を、大学院および学部の授業（「鍵盤楽器演習A」前期・後期、4年次生対象のゼミ）で取り上げ、演奏および分析等を行いながら学生にその演奏法を指導し、学生に演奏発表を行わせた。対象とした作曲家は、西村の他に、A.シェーンベルク、A.ベルク、A.ヴェーベルン、O.メシアン、P.ブーレーズ、I.クセナキス、A.ジョリヴェ、A.ルヴィエ、武満徹、J.ケージ、G.クラムなど多数。